

鶴田町地域おこし協力隊に就任

町では、町外の人材を積極的に誘致して、その定住・定着を促進しながら地域の活性化を図るため、3大都市圏をはじめとする都市地域の在住者を対象に鶴田町地域おこし協力隊を募集しており、この度当町3人目となる地域おこし協力隊員として川口^{しょうた}さんが着任しました。

「鶴田町に新たな人の流れを生み出すような地域内・外の交流事業を創出する」ことを主な目的に、令和2年10月1日（木）より新たに鶴田町地域おこし協力隊員として活動を行っています。

町役場で行われた任用通知書交付式では、相川町長は、「全国多くの市町村から鶴田町を選んでいただきありがとうございます。川口さんの目的である鶴田町に新たな人の流れを生み出す交流事業の創出は、今年から実行している町総合戦略の大きな柱の1つである『鶴田町への新しい流れを作る』と合致しているので、町と協力し新たな人の流れを創出してくれることを期待しています」と激励の言葉をかけていました。

地域おこし協力隊としての任期期間中（最長3年間）は、飲食店運営の経験を活かして鶴田町内にコミュニケーションの拠点スペースを立上げ、オンラインも交えたイベントや交流企画の募集・実施により町内・町外のモノ・ヒト・コトをつなぎ、新たな価値（学びの場）を創出・提供する活動を行っていくようです。

地域おこし協力隊とは、おおむね1年以上3年以下の期間、市町村からの委嘱を受け、地域で生活し、さまざまな地域協力活動を行っていただく取り組みです。令和元年度は、5349名の隊員が1071市町村で活躍しており、令和2年3月末時点では、約6割の隊員が任期終了後も同じ地域に定住しています。



△これからの活動の展望について話す川口さん

鶴田町地域おこし協力隊に就任した川口さんをご紹介します



氏名：川口^{しょうた}翔太さん
年齢：33歳
町内：あさひ町
出身地：青森県 青森市
趣味：サッカー



Twitter



facebook

このたび、10月から3人目の鶴田町地域おこし協力隊員としてに着任しました、川口 翔太さんです。

川口さんは、高校まで県内で育ち、大学進学のため県外へ、その後八戸市で就職。前職は飲食店の店長として勤務していました。鶴田町との縁は、当町在住の弟の川口潤也さん（料理人として活躍中）が「一緒に仕事をやらないか」と川口さんを誘った一言がきっかけのこと。その後、将来に向けた仕事の話を詰めていく中で、鶴田町をより盛り上げたいと思い、地域おこし協力隊に応募したそうです。

これからの展望としては、町内の方が便利に利用できるオンライン上のネットワーク（SNS等の既存サービスを組み合わせたもの）を構築し、町民同士の交流の一助を担う活動を進めたいとのこと。

また、町外に向けては、SNSで観光や暮らしを発信し、オンラインイベントを企画実施することで、移動制限されている中でも鶴田町に興味を持つ人（関係人口）の増加を目指し、コロナ禍の収束時には、実際に人の移動を伴った交流拠点としてのコミュニティスペースの運営を目指すそうです。

川口さんは「拠点スペースの自立運営を目標に、ポストコロナ社会の新しい交流活動にチャレンジすることで人とのつながりやネットワークを築いていきたいです。活動を通じて町内・町外の人々が主体的に鶴田町に関わるきっかけになれば幸いです」と意欲を見せていました。